

日本共産党区議団の 区議会速報



2020. 6. 3

日本共産党文京区議団 Tel 5 8 0 3 - 1 3 1 7

新型コロナウイルスの影響により多くの困難を極め、不安の日々をお過ごしと存じます。

政府は5月25日、月末の期限を待たずに5都道府県の緊急事態宣言の解除を決め、全ての地域で解除になりました。その後、27日に感染拡大対策の第2次補正予算案を閣議決定しました。この第2次補正予算案には、国民の批判と野党の国会論戦により、医療、雇用、中小企業などへの支援策が拡充されましたが、私たちが安心して暮らせるということにはなっていません。この間の特別定額給付金や雇用調整助成金、持続化給付金など「申請手続きが複雑」や「申請後処理の煩雑」などで支給が迅速に進んでいません。

また、2日には「東京アラート」が発令されるなど感染の第2波への不安が拭えません。通勤・通学が戻り、飲食やスポーツ施設などの利用、観光など段階的に解除されると感染リスクは上がります。そのため、感染を速やかにキャッチし、適切な対応をするにはPCR検査体制の整備や医療体制の強化・財政支援などを整え、暮らしを守る補償措置の継続が必要ではないでしょうか。

また、文京区でも一般会計補正予算案が審議され、中小企業等への資金融資あっせんや事業者への家賃助成、保育園・育成室の保育料の還付など、区民が望むいくつかの施策が計上されました。党区議団は、引き続き不十分な施策や暮らしを守る補償の継続を求めてまいります。

一方、小池都知事はコロナ禍においても都立・公社病院の独法化を推進しています。新型コロナウイルス感染症の対応は、専門性が高く、採算が困難なもので、都立・公社病院はその対応を担っているのではないのでしょうか。東京都は、病院への財政支出を削減し、病院を効率化し「独立採算」とするものです。これは、儲からない医療の後退、患者負担増や医療従事者の労働環境の悪化を招くこととなります。都立・公社病院は、このコロナ禍でこそ充実が求められるのではないのでしょうか。

6月定例区議会、日本共産党区議団の質問は、次のとおりです。



関川けさ子 区議が代表質問します

6月9日(火)午後2時頃から(1人目)

- ◎新型コロナウイルス感染症について、保健所統廃合が対策を遅らせた結果に。感染症対策に万全を
- ◎第2PCR検査センター設置を。介護利用者等にPCR検査実施を
- ◎「自粛と補償はセットで」を貫き、補償措置の強化と継続を
- ◎一刻も早い特別給付金の支給を。DV被害者等もれなく支給を
- ◎感染症対策に配慮した避難所計画、防災計画に
- ◎学校再開後の授業は、過重な負担を避け個々に応じた対応を
- ◎20人以下の少人数学級の実現で感染症対策に万全を
- ◎保育園感染症対策を強化すること。困窮家庭への経済的支援を
- ◎旧元町小学校、元町公園改修は区民要望を取り入れて／Bーぐるの第3路線は区民要望に添うルートに。第4路線の検討を

ぜひ傍聴においでください

手続きがあります。はじまる10分前頃に区役所(シビックセンター)22階の日本共産党控室においでください。(23階の区議会事務局に直接でも結構です。)